



私たちの保幼小連携・接続へ ～子どもの具体的・直接的体験をつなげよう～

講師 古賀 松香 京都教育大学教授



レッツ！チャレンジ！

京都市架け橋プログラムクイズ

- ① □架け橋期とは5歳児の後半から小学1年生1学期のことまでを言う Yes / No
- ② □保幼小の連携と接続の違いを説明できる Yes / No
- ③ □架け橋プログラムは先進モデル地域の取組のことで、すべての学校区で取り組むものではない Yes / No
- ④ □京都市における連携・接続は、入学してくるすべての子どもの所属先と行うものである Yes / No
- ⑤ □京都市には保幼小の連携・接続に関する専門的な助言を行う架け橋コーディネーターが複数いる Yes / No
- ⑥ □京都市は保幼小連携窓口一覧を作成し、各幼児教育施設及び小学校に配布している Yes / No



- ① No（5歳児～1年生の2年間）
- ② 連携は大人同士の関係づくり、連携組織、接続はカリキュラム、教育内容をつなげること
- ③ No（全国区で取り組む）
- ④ No（小学校区にある幼児教育施設とおこなう）
- ⑤ Yes
- ⑥ Yes

架け橋プログラムは全国津々浦々で取組を進めています

○ 日本の子どもたちの今とこれからの社会

☆子どもたちの現状は・・・

- ・知的レベル高い
- ・自分で学ぶ自信がない
- ・不登校の子どもが増加
- ・いじめの認知件数増加



☆取り巻く社会

- ・様々な業種の外国人労働者増加
- ・生成AIの進出



- ☆大人になった時には・・・
- ・多種多様な人や様々なAIと共に生きる
 - ・働き方・作り方・考え方が変化

今、どんな子どもを育てたい？

- ・自分で考える
- ・友達の考えを受け入れる
- ・自分の考えと新しい考えを調整する子ども



そのために



小学校や幼児教育施設で

- ・多様なものに出会う
- ・多様な価値に出会う
- ・多様な考えに出会う

・悩んだり、驚いたり、感情が揺さぶられたり、傷つくことがあっても、互いに支え合って、より楽しいものに思える。明日がもっと楽しみになる経験を！



○権利主体としての子どもと、保幼小連携・接続



子ども家庭庁 HP に、映像・資料多々あり

令和5年4月「こども基本法」12月「こども大綱」が策定されました。その中では、「こどもまんなか社会」や「ウェルビーイング」について言われていますが、同じ12月、もう一つ「はじめの100か月の育ちビジョン」が閣議決定しました。その「はじめの100か月」は妊娠期から7歳頃までを指し、**小学校の1年生まで含まれています**。その「はじめの100か月」が、子どもの**人生を支えていく非常に重要な時期**であると書かれています。

子どもが主体 → 子どもが学び手 → **学びの主体は子ども**

子どもが様々な環境に出会い、人と出会い、考えていく。

幼児教育施設・小学校で
していくことが大事！

子どもの思いや願いを受けとめ、その主体性を大事にする

＜遊び＞とは
子どもが環境に出会い、関わり、不思議に
思ったり関心をもったりして「〇〇した
い」と自分から思ったり、「〇〇したらど
うかな」とさらに関わりを工夫したり、試
行錯誤したりするプロセス

〇〇したい！



(土台として) 大人との安心できる関係

保幼小一緒の価値観としたいところです！

そして、学びの主体が学びだすように、あそびの環境や内容を考えていく。

〇架け橋プログラムが投げかけるもの

- 〇子どもの健やかな育ちをつなげよう
バラバラにでなく、共に子どもの育ちを見据えて、そこに向かって創造していく **教育共同体に！**
- Step1 連携・接続先と知り合おう **幼保小連携窓口一覧の活用を！**
- 〇遊びで学ぶ子どもの姿 イメージを共有しよう
(参考:「遊びは学び 学びは遊び “やってみたいが学びの芽”」(文部科学省 YouTube 7分20秒))
- Step2 互いの実践から学び合おう
- 〇専門家の交流には共有できる実践のイメージが必要 写真・アイデアを持ち寄り、**教育に何の価値をもって挑んでいるか**を語り合おう
- 〇幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を **共通言語**として活用してみよう
育てたい子どもの姿やねらっている子どもの姿もいいです。
- 〇今のままで十分な実践は存在しない
実践を考えると、「**目標を共有すること**」「**実践を共有すること**」「**視点を共有すること**」「**価値・理念を共有すること**」の4つを共有したい
- 〇架け橋プログラムが目指すもの=保育・教育実践相互の質向上
「? (違和感)」が実践をすり合わせるヒント
- 〇完璧な実践もまた存在しない「すごい！」実践ももっと子どもの目が輝く実践になりえる！
疑問をもつこと、疑問を持ち続けることは、子どもも大人も大事！
- 〇互いをリスペクトし合う教育共同体

大人がワクワクして作る実践は、子どもも必ず目を輝かせます ✨

＜参加された方からは・・・＞

架け橋プログラムの研修では、交流の実践等について情報交換することが多かったが、「これからの時代」に「どんなヒトに育てたいか」というお話を聞き、この取り組みの大切さについて根本から学べたように感じました。

保育園・幼稚園は遊びがホンモノ!!という感じがしました。小学校では決まっていることも多くあるけれど、そこにも遊びの要素-ホンモノの部分があればやりたいことになるかと改めて感じました。

違う環境での様子を知り、学べることで
できる貴重な機会でした。共通理解
やすり合わせができた気がします。

幼保小が密に連携・接続することで
子ども一人一人の可能性を引き
出せるようにしたいと思いました。

今回の研修会では、就学前施設と小学校の先生方で子どもたちの姿や日々の実践を元に話し合いをしたことで、活発に楽しんで話をしながら、互いの教育保育について、学び合われる姿がたくさん見られました。同じ時間、同じ話を集合して聞き、参加者が顔を見合わせながら話し合う事の大切さを改めて感じました。

こどもみらい館では、様々な地域で架け橋がかかるお手伝いを、引き続きしていきたいと思っています。たくさんの先生方に御参加いただき、ありがとうございました。

DVD貸出中